

## 推薦の辞

我が国における医療科学技術の発展と普及は多くの国民に安心と安全の医療を提供し、誰でもがその恩恵に浴することが出来るようになってきた。各医療機関の情報公開が進む中で、国民はさらに今まで以上に安心して安全な医療環境の提供、今まで以上に質の高い医療技術の提供、今まで以上に質の高い患者サービスの提供、医療水準に基づいた診断・治療・検査を求めるようになってきている。このような中で、放射線検査・治療のエキスパートを目指す診療放射線技師は各種学会のガイドラインの導入と普及を計り、常に最先端医療技術に眼を向け、日常医療の進化に向けた行動目標を設定しておく必要がある。

平成 22 年 4 月 30 日厚生労働省医政局長から「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」（医政発 0430 第 1 号）の通知が各医療機関に発せられた。主旨は、多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担すると共に互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供するチーム医療の実践を求めている。診療放射線技師のところでは「放射線治療・検査・管理や画像検査等に関する業務が増大する中、当該業務の専門家として医療現場において果たし得る役割は大きなものとなっている。以下に掲げる業務については、現行制度の下において診療放射線技師が実施することができることから、診療放射線技師を積極的に活用することが望まれている。①画像診断における読影の補助を行うこと ②放射線検査等に関する説明・相談を行うこと」と通知されている。

この度、山田實紘先生、齋藤公志郎先生、熊田卓先生、田中博司先生の指導の下、金森勇雄先生、藤野明俊先生、丹羽政美先生たちの教育研究グループによる『診療画像検査法 画像解剖学』が上梓された。内容は解剖学の基本となる細胞・組織の基本図を中心に運動器官、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、乳房、内分泌系、神経系、感覚器系から構成されている。

本書の特徴は、医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進を意識し、日頃各診療科の要望に応じて 3 次元・4 次元画像を作成しているエキスパート診療放射線技師や放射線治療における品質管理を行っているがん放射線療法専門診療放射線技師の業務をサポートする内容としてまとめられていることである。各章ともに大変解りやすい記述と 3D 画像・カラー絵図が十分活用されていることも大きな特徴となっている。本書はエキスパート診療放射線技師を目指す人たちの手引き書として、診療放射線技師養成校の学生諸氏、放射線部で働く看護師、臨床工学技士、臨床検査技師にも有用な情報が満載されているので是非活用していただきたい。

2014 年 1 月吉日

公益社団法人 日本診療放射線技師会  
会長・医学博士 中澤 靖夫